

だから職員が辞めていく ダメな施設を選ばないために 19

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-09-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡田, 耕一郎, 岡田, 浩子 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/231

だから職員が
辞めていく

ダメな施設を選ばないために

個別ケアに力を入れているという老人ホームは多い。しかし、施設によって個別ケアの意味合いはいろいろと違う。個別ケアごっこのようなレベルのものから、そこそこ真つ当な個別ケアまで、実にさまざま。個別ケアは客寄せには向かないが、ユニットケアのほかに、個室に洗濯されたのかもしれないが、ユニットケアの建物を作ったから、うちの老人ホームは個別ケアをしているという理屈にはスウエーデン人も驚くだろう。ユニットケアにしても個別ケアができないことが彼らの悩みのなに。

いいキャッチフレーズで、その言葉を出さただけ釣られて就職する人もいるそう
だ。大したことがない普通
の介護を個別ケアとありが
たがり、後でたまされたと
して、当初は崇高な理想として光り輝いていた
個別ケアは、今や学生、介
護職員を惑わす振り込めサ
ギの常套句になってしまっ
たのは残念である。

その実態は勝手気ままな介護

い子を惑わす魔法の言葉「個別ケア」を取り上げてみよう。

個別ケアとは、本来、一人ひとりの利用者に合わせ、た介護を意味していたはずだが、未熟練の介護職員が個別ケアと称して勝手気ままに介護サービスを提供しているのを見かけることが多くなった。利用者の集団に一齐に同じ介護を提供するようなやり方（集団ケア）でないなら個別ケアであると誤解されているふしもある。やることなすこと全て個別ケアだと考えている人たちもいる。「ユニットケアにして個別ケアをやる」というキャッチフレーズ

岡田耕一郎 (おかだ・こういちろう)
東北学院大学経済学部教授。経営組織論。日本、スウェーデン、ドイツの介護サービス組織のマネジメントを研究。

岡田浩子(おかだ・ひろこ)
介護福祉士、社会福祉士。共著として07年に『老人ホームをテストする』を暮らしの手帖社から出版。

このように、個別ケアとアもある。たとえば、介護呼ばれている介護の基礎的な部分は、介護職員が自由な発想で、臨機応変に対応するというよりも、むしろ個々の利用者の状態をしっかりと把握した結果に基づき、介助がそれである。

いて、決められたやり方で提供するような介護である。利用者の状態を、たとえば食事形態であれば、普通食、刻み食、ミキサー食のようにパターン化していることから分かる通り、見方を変えれば「画一的」であるといつてよい。

また、利用者の買い物に付き添うことも、その種の個別ケアであるといつてよい。このレベルの個別ケアは、利用者の要望の内容がさまざまであり、しかも要求されるたびに内容が異なることがあるので、それに対応するには提供する側の

そのような三大介護に焦点を絞った個別ケアの基礎
職員がかなり柔軟に行動し
なければならぬ。

的な部分とは別に、もう少しオーダーメード的な個別ケアもある。たとえば、ケアプランの中で個々の利用者に合わせて展開されるようがよきそうだ。

うな介護であり、自分で寝返りができない利用者に体位交換をしたり、エアマツトを使用するような介護である。これも、いわば決められたやり方で提供するような介護であり、やはり「画一的」であるといつてよい。

ところが、介護現場で見かける個別ケアとは、未熟練な介護職員がその日の利用者に合わせてと称して、自分のお気に入りの利用者の横に座って話をしたり、車いすの利用者を全員のリビングに並べて放置したりするものである。世間話や放

さらに、それとは別に、置がプロの技とは情けな
利用者のその目の要望に
提供するような個別ケ
アっぽいように見えたケ

も利用者にとって適切な介護が行われているとは言い難い。職員の気分に任せたレベルの低い「本日のお勧め介護」が提供されている。このように、残念ながら「介護現場では「自称個別ケア」があふれ、しかも三大介護に関する最も基本的で重要な個別ケアがないがしろにされている。

個別ケアは介護の基本であり、個別ケアの言葉の意味を自分の頭でしっかりと考えることができる職員が多い施設でなければ、介護の専門職として成長していくには不安である。

わけの分からない個別ケアを職員が「二斉に」「元氣よく」やり始める施設は、常識的な職員にとって居心地が悪い。絶望的な老人ホームを選ばないためにも、個別ケアを漠然ととらえるのではなく、少なくとも説明したように3つの段階に分けて、それぞれの段階がどの程度、きちんと提供されているかを吟味した方がよい。

最近では、ユニットケアをやれば個別ケアができていると早とちりする介護職員も多いが、子供でも分かる通り、介護は、一人に人手、二に能力（逆かもしれない）、三、四がなくて、五が建物だ。

個別ケアをきちんとやる
 気があるのなら、利用者の
 ニーズに対応できるだけの
 個別ケアの提供能力を持っ
 た職員を十分な数揃えるし
 か方法がない。どうしてこ
 んな当たり前の議論をしな
 いのだろうか。